



広報 ひたちおおた

令和6年
2024
3月号

No.748

自動運転EVバス
「じよっピー」

広報
ひたちおおたが
WEBでも読める



“じよっピー”に乗って
みんなハッピー♪

乗って
ほしすぎ♪



自動運転EVバス
「じよっピー」が
定常運行スタートしました!



Start up!
Hitachiota

特集

常陸太田で

起業

しよう



やりたい夢を実現したい、家族と一緒に過ごしながら働きたい…多様なライフスタイルと、理想の働き方の両立が叶うのが「起業」という選択です。常陸太田市では、市内で起業を目指す皆さんを応援する支援制度を用意しています。実際に、市の支援制度を活用しながら市内で起業を実現した方のお話を聞きました。起業を目指している皆さん、常陸太田で新たな夢のスタートを切りませんか？

新規事業等支援制度について

新規起業支援事業費補助金 [補助対象：個人]

市内で新規起業をする際の対象経費の一部を補助します。

- 対象経費…人件費、官公庁への申請書類作成等に係る経費、施設借入費、設備費等
- 補助金額…対象経費の2分の1、年間最大50万円まで(最長3年間)

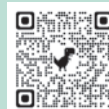


詳しくは
こちら

空き店舗改修費補助金 [補助対象：中小企業・個人事業主]

空き店舗改修およびそれに伴う家財道具等の処分に係る費用の一部を補助します。

- 対象経費…解体工事、外壁工事、看板設置工事、内装工事、給排水衛生設備工事等
- 補助金額…対象経費の2分の1、100万円まで
家財道具等処分費は対象経費の10分の10、20万円まで



詳しくは
こちら

◎そのほか、各種補助金・奨励金があります。

市ホームページをご確認いただくか、商工振興・企業誘致課(内線621)へご相談ください。

01 飲食店

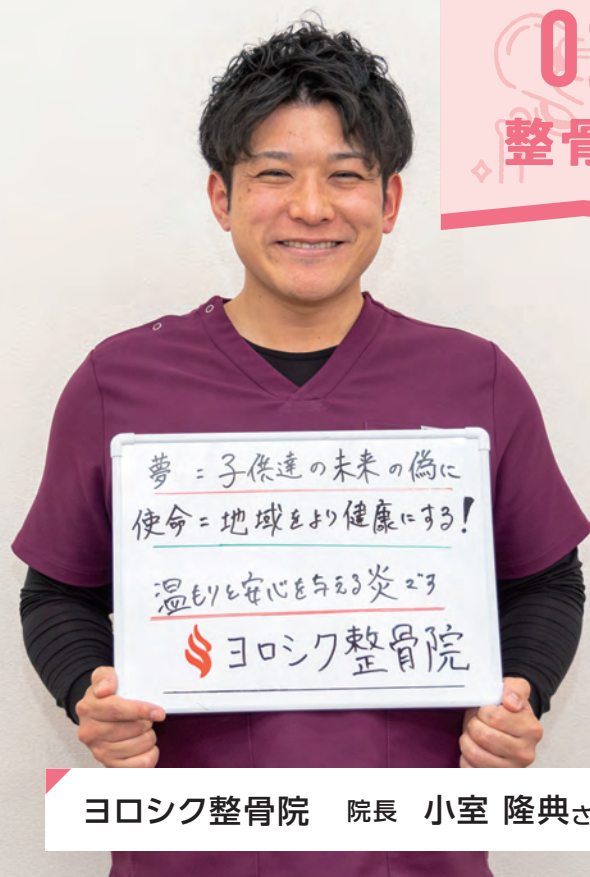


ひですけ
きまぐれ食堂 英佐 佐藤 英晃さん

創作料理で地域活性化を目指す

常陸太田市民市場内で人気を博す飲食店・英佐。店主の佐藤さんは常陸太田出身で、独立する前は市外の飲食店で働いていました。元々は和食の職人でしたが、中華や洋食も経験することができ、料理人として幅が広がりました」という佐藤さん。転機が訪れたのは44歳の時でした。当時、常陸太田から水戸まで通勤していたところ、体力面の負担に加えご家族の具合が悪くなるなど「このまま通いで勤めるのをいつまで続けられるか」と不安になったそう。そこで独立を考えるようになり、ならば家族のいる常陸太田でお店を始めようと決めました。「ちょうど物件を探し始めた時に、令和元年6月いっぱいまで前のお店が閉店すると聞いて手を挙げたんです。店舗の改装もして、11月にオープンし

ました。ですがその後、ちょうどコロナ禍になって…そんな時に、市の新規起業支援事業費補助金のことを知り、活用させてもらってとても助けていただきました」。同補助金をおもに人件費とテナントの家賃に充てたと話す佐藤さん。飲食店にとって厳しい時期が続いた中でも、補助金を活用しながら口コミを中心に客足を伸ばし、評判のお店になりました。今後の展開について、「お客様のニーズや時勢の変化に柔軟に対応しながら、今の形にこだわらず、常陸太田で続けていけるやり方を考えていきます。例えば製造業とか、キッチンカーなど…形は変えても、皆さんに美味しいと満足してもらえよう、これまで自分が学んできた技術を生かしていきたい」と、話してくれました。



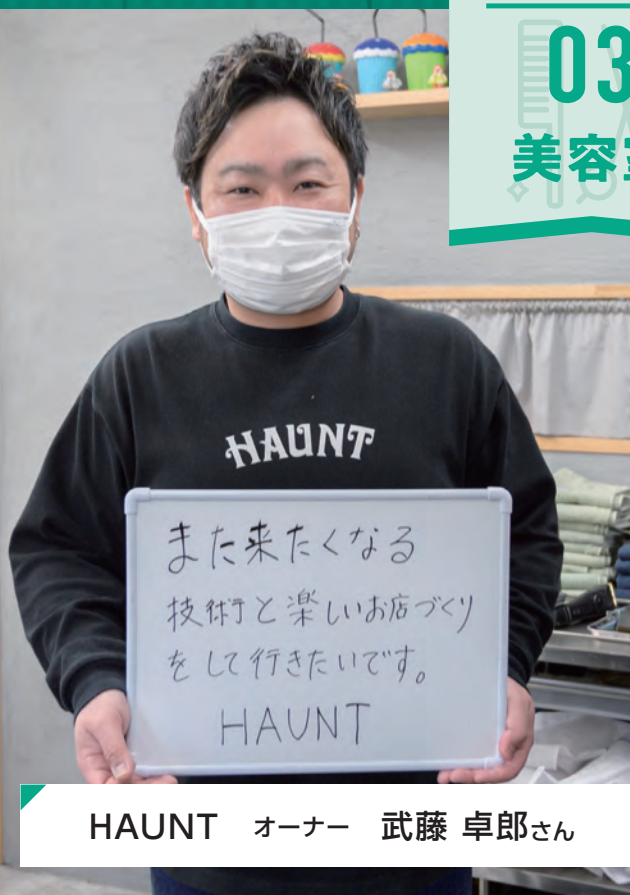
ヨロシク整骨院 院長 小室 隆典さん

子供達の未来の為に、地域をより健康に

オープン5年目に突入した馬場町のヨロシク整骨院。患者さんに寄り添ったカウンセリングと経験・知識に基づく確かな技術でリピーターの多い施術院です。地元ママさんバレーや部活動のスポーツケアにも携わるなど、地域の健康づくりも応援しています。院長の小室隆典さんは市内真弓町の出身で、福島県の医療専門学校で基礎を学びました。その後、県外の施術院で働いていましたが、結婚を機に地元・常陸太田へ戻ります。「帰ってきた時点では、独立開業はまだ考えていませんでした。まずは技術と知識をもっと身につけたくて、水戸市内の整骨院で働きました。経験を積み自信がつかしてきた頃、妻が妊娠したことをきっかけに独立を決意。家族ともしっかり一緒に過ごしながら働きたくて」と小室

さん。独立を決めてからは半年弱とスピード開院。開業にあたっては、人との縁に助けられたといいます。「予約制、一对一の施術スタイルでスタートしたのですが、ママさんバレーの皆さんが来てくれたり、お客さんを紹介してくれたおかげで徐々に軌道に乗せることができました。起業にあたって人脈は宝です」。市の新規起業支援事業費補助金についても、元々独立前から商工会に通って相談していたことで情報を得たといいます。「開業資金はいくらあっても足りないですから、補助金は絶対に活用するべき！3年も使えますから。事前に色々な人に相談して情報収集して、最大限有効活用するのがいいですね」とこれから起業を考える人へエールを贈ります。

03 美容室



HAUNT オーナー 武藤 卓郎さん

地域に根差したアットホームな美容室

令和5年4月にオープンしたばかりの美容室HAUNT。オーナーの武藤さん夫婦お2人で営むプライベートサロンです。ご主人の武藤卓郎さんは生まれも育ちも常陸太田。実家が床屋だったことから、理美容業界を間近に見て育ちましたが「元々は自分でハサミを持つつもりはなかったんです」と卓郎さん。ところが、アルバイトで入ってみたら意外にもこの職が楽しいと気に入ってしまい、結果的に美容師の道へ進むことを選んだのだそうです。自分で店を構える前は、市内美容室で約15年勤務。長く勤め上げるつもりで働いていましたが、たまたま現店舗建物の地主からテナントが空くことを聞き、独立開業を決めたといひます。「火曜定休が多い美容室では変則的ですが、プライベートと

両立させたくて月曜と第2・第4日曜を休みにしました。そういうことができるのも、起業ならではのですね」と武藤さん。市の新規起業支援事業費補助金については「開業初年度から早速活用し、おもに家賃や改装費に充てました。2年目も店舗外壁に付ける新しい看板の施工費等に活用する予定です。」とのこと。「通いやすいアットホームなヘアサロンを目指していて、親子で通ってくれるお客様も多いです。おかげ様で新規の方も増えてきたのですが、今はセット面2席とシャンプー台だけしかないので規模拡大も考えています。ネイルや脱毛など、美容メニューも展開していきたい。今後、補助金を活用して地元で愛されるお店を目指します」と展望を話してくれました。



交通栄誉章
緑十字銀章を受賞

1月17日、都内文京区文京シビックホールで開催された「第64回交通安全国民運動中央大会」において、令和5年度交通栄誉章の表彰が行われました。本市では、交通事故の防止と交通秩序の確立に顕著な功績のあった橘正成さん（高貫町）が緑十字銀章（交通安全功労者）、永年無事故無違反の久保木昭一さん（亀作町）が緑十字銀章（優良運転者）を受賞されました。



久保木 昭一さん



橘 正成さん

優秀教職員表彰

〔文部科学大臣表彰〕

令和5年度県優秀教職員表彰で、水府小の曾根勉教諭が優秀教職員に加えてティーチャーオブティーチャーズ（TOC）として表彰されました。TOCとは、優秀教職員の中で、特に継続的な実践で成果をあげ、他の教員の指導力向上に寄与している教員を表彰するものです。曾根教諭は、小中一貫校における9年間を見通した「自分の考えを表現できる力の育成」に取り組み、9年間のカリキュラム・マネジメントを確立した点などが評価されました。

〔ICT夢コンテスト2023〕

（二社）日本教育情報化振興会主催のICT夢コンテスト2023において、太田小の薄井祐太教諭が日本教育新聞社賞を受賞しました。同コンテストでは、教育現場でICTを積極的に活用して成果をあげた先進的あるいは独創的、さらには、その工夫されたICT活用方法の普及や発展が期待できる実践事例を募集し、審査を行います。薄井教諭は「今と昔をつなぐ、教育版マイクラフトを使った舞鶴城（太田城址）再現プロジェクト」と題した事例で見事受賞されました。



【左から】宮田市長、曾根教諭、薄井教諭、滝教育長

統計功労者表彰

永年にわたり統計調査に従事された統計調査員が、統計功労者として県統計協会総裁表彰を受賞されました。

岡部利美さん（白羽町）





おめでとうございます



太田一高生が観光甲子園で全国大会決勝出場

高校生の観光事業構想コンテスト観光甲子園の「空飛ぶクルマ部門」と「SDGs 修学旅行部門」の2部門において太田一高の有志生徒が全国大会決勝に出場し、2月14日、市長のもとを訪れ大会の報告をしました。観光甲子園とは、全国の高校生がSDGs思考で観光事業企画を競うコンテストです。「空飛ぶクルマ部門」では、空飛ぶクルマの実用化に向けて観光分野における事業アイデアを計画し、「SDGs 修学旅行部門」では、自分たちの町を舞台にSDGs思考で修学旅行プランを計画します。全国から613チームのエントリーがあり、決勝に出場できるのは各部門5チームとなっていますが、太田一高からは見事2チームが決勝に出場しました。



(後列左から) 谷津校長、石井教諭、斎藤柗太さん、寺門壮太さん、本田拓真さん、宮田市長
(前列左から) 石川空来さん、川松美桜さん、西口日向葵さん、海老根夏鈴さん

梅原工務店がユースエール認定企業に認定されました

2月7日、(株)梅原工務店が、国が認定する「ユースエール認定企業」として認められ認定通知書授与式が行われました。厚生労働省では、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を若者雇用促進法に基づき、「ユースエール認定企業」として認定しています。認定された企業は、ハローワーク等による重点的PRの実施や、認定企業限定の就職面接会などへの参加が可能になるなど企業のイメージアップや優秀な人材の確保などが期待されます。



(左から) (株)梅原工務店 梅原基弘さん、茨城労働局 西方雅一さん

TOPICS

茨城日産自動車株式会社と協定を締結

1月26日、市は茨城日産自動車株式会社と災害時における電気自動車等による電力供給に関する協定を締結しました。この協定は、大規模な災害によって停電が発生した際に、市の要請により茨城日産(主に常陸太田店)が所有する電気自動車から避難所等への電気の供給を受けることを目的としています。



折橋町で地元学事業発表会が開催されました

1月14日、折橋町において地元学事業の活動発表会を行いました。発表会では、これまでの活動で再発見した地域のお宝(地域資源)や、こんな折橋町にしたいという地元の方のアイデアを発表しました。また、「折橋町鳥追い祭り〜正月の食卓会〜」も同時に開催され、まゆ玉作りをはじめとした小正月の行事を行い、楽しいひとときを過ごしました。



宮ノ脇保育園で豆まき

2月2日、宮ノ脇保育園の園児たちが馬場八幡宮で節分行事の豆まきを行いました。宮司さんによる御祈禱を受けた後、「鬼は外！福は内！」と元氣な掛け声とともに、鬼に見立てたかごにボールを投げました。また、子どもたちは手作りの鬼のお面を身に着けて、節分を楽しんでいました。





市ロードレース・親子ふれあい大会

2月10日、大里ふれあい広場周辺で、第17回市ロードレース・親子ふれあい大会を開催しました。この大会では、親子の部（小学1・2年生が対象）と、小学3年生以上の部があります。市内の小中学生が参加し、保護者の方が沿道で見守る中、力強い走りを見せてくれました。また、親子で協力し合いながら走り抜ける姿が見られ、親子の絆を感じられる大会となりました。

*3位までの入賞者は15ページに掲載しています。



汁ONEカップを開催

2月11日、常陸太田駅前前で第11回汁ONEカップ2024が開催されました。市の食材を使った汁料理のナンバーワンを決める汁の部には19店が参加し、来場者投票によって順位を競いました。また、物販等の部には14店が出店し、青空のもと、市内外から約6500人が来場しました。



1位 朝日堂「コラーゲンたっぷり塩ホルモン鍋」
 2位 オー・ボン・ヴィヴェール ラ・キャパンヌ「海老のだし香る海鮮トマトスープ」
 3位 なんちゃっておぐらや「奥久慈しゃもと常陸太田野菜の具だくさんスープ」

株式会社マクニカとまちづくり推進の連携協定を締結

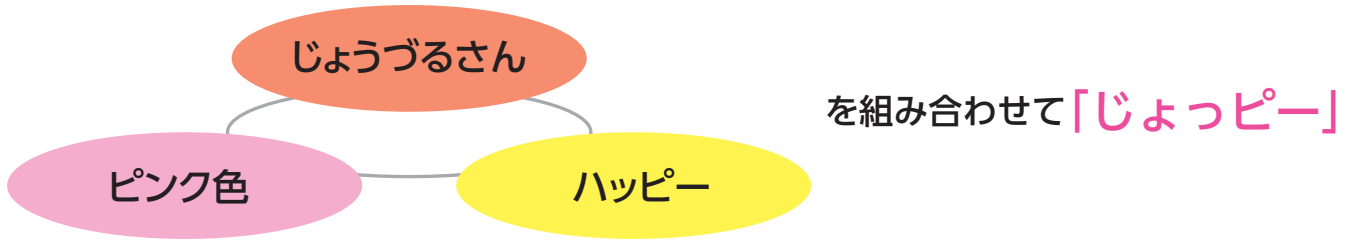
2月16日、市は株式会社マクニカと「次世代モビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結しました。この協定は、自動運転EVバス運行の着実な実装と、次世代モビリティによる地域活性化や移動環境の向上を目的としています。自動運転の定常運行の継続とともに、「本市をフィールドにして、通信環境が劣悪な場所での自動運転通信システムの接続や緊急車両等との連携の実証など」早期の自動運転レベル4走行実現へ向けた課題解決に共に取り組んでいきます。





自動運転EVバス「じょっピー」出発式

2月16日、フォレストモール常陸太田駐車場で自動運転EVバスの定常運行開始を記念した出発式を行いました。また、公募していたバスの愛称は、押手 祐好さん(世矢小3年)の作品「じょっピー」に決定しました。



じょっピーに乗った人がみんなハッピーな気持ちになるといいなと思います。



押手さん



出発式には、水戸ホーリーホックのホーリーちゃんと、茨城ロボットのロボスケが駆けつけてくれたほか、太田さくら認定こども園の皆さんが小旗をもってじょっピーのお見送りをしてくれました。



じょっピーの現在位置や、混雑状況がリアルタイムでわかります！



●「じょっピー」のリアルタイムな位置情報やバス停・周辺店舗情報を示したデジタルマップを市行政情報アプリ「じょうづるさんナビ」で確認することができます。



令和5年度原子力災害広域避難訓練実施結果(概要)

令和5年10月21日に実施した原子力災害広域避難訓練の結果(概要)についてお知らせします。

訓練概要

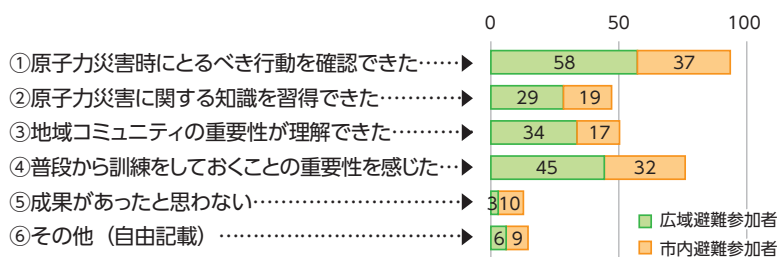
日本原子力発電(株)東海第二発電所での事故を想定し、災害発生時から屋内退避、一時移転といった原子力防災における一連の流れを訓練し、市原子力災害広域避難計画の検証を行うとともに、対応の習熟を図った。

訓練参加機関

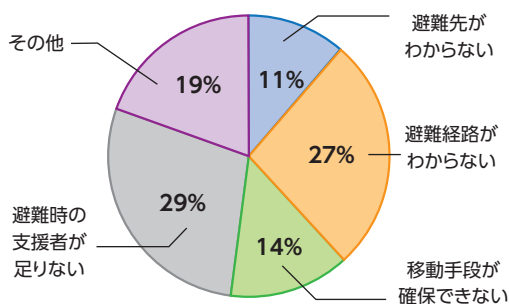
常陸太田市、常陸太田市議会、常陸大宮市、内閣府(原子力防災担当)、県原子力安全対策課、県原子力オフサイトセンター、太田警察署、陸上自衛隊施設学校、日本原子力発電(株)東海第二発電所、障害者支援施設ピュア里川、福島県鏡石町・石川町・玉川村、佐竹・郡戸・久米地区自主防災会

訓練成果(参加者アンケート)

どのような成果があったと考えますか(回答者136人 複数回答)



今後解決すべき課題(回答者98人)



結果と課題



市災害広域避難計画の実効性の向上

結果:市原子力災害広域避難計画を網羅的に検証することができた。

課題:事故の推移に応じた業務の整理や図上訓練・検討会による習熟度の向上などが必要である。

原子力災害時における職員対応マニュアルの検証

結果:各種マニュアルを整備・検証することができた。

課題:一時集合場所における受付、安定ヨウ素剤の配布、誘導の手順の改善などによる時間短縮が必要である。

住民の原子力防災基礎知識の向上

結果:訓練に参加した市民の基礎知識の向上が図れた。

課題:訓練や研修を通じて、住民の原子力防災に関する理解を深められるよう継続した取り組みが必要である。

放射性物質の拡散シミュレーション結果に基づく検討

結果:訓練後に公表された拡散シミュレーションを活用し、訓練で使用した避難退域時検査場所や避難経路について、検証することができた。

課題:拡散シミュレーションの結果を踏まえ、実災害時は放射性物質の拡散状況や道路状況に応じて、避難退域時検査場所や主要避難経路の変更など柔軟に対応する必要がある。

市では、引き続き原子力防災の取り組みを進めてまいります。

⑪ 訓練結果の詳細は市ホームページをご確認ください。



市ホームページ
(原子力防災)



令和5年度 “カーボンニュートラル顕彰制度”の表彰式を行いました

応募数	
【活動部門】	
●企業の部	……3社
【作品部門】	
●一般市民の部	……2人
●小学生の部	……6校 298人
●中学生の部	……5校 161人

市ではカーボンニュートラルを実現した脱炭素社会を目指す取り組みの一つとして、市民、市民団体、企業によるカーボンニュートラル達成等地球温暖化対策に向けた取り組みや作品を顕彰しており、カーボンニュートラル基金活用委員会において、カーボンニュートラルの理解度、メッセージ性等を審査し、受賞者を選びました。

令和5年度 受賞者

活動部門 地球温暖化対策に向けた先進的な取り組みを行う企業・団体

企業の部

井上さん 塚さん 伊村さん

- 👑 **最優秀賞**
ピジョンマニュファクチャリング茨城株式会社 (代表 塚里志さん)
- 👑 **優秀賞**
茨城リネンサプライ株式会社 (代表 伊村佳洋さん)
- 👑 **優秀賞**
有限会社井上製作所 (代表 井上健さん)

作品部門 カーボンニュートラル実現に向け、簡潔で覚えやすい標語

一般市民の部

細谷さん 會澤さん

- 👑 **優秀賞** 會澤 勝彦さん
「温暖化 人の思いが 未来を救う」
- 👑 **優秀賞** 細谷 浩之さん
「ファッションも サステナブルにする古着」

小学生の部

日下部さん 細谷さん 立原さん

- 👑 **最優秀賞** 細谷 楓さん (太田小4年)
「だれかじゃない ぼくらが守るぞ 未来の地球」
- 👑 **優秀賞** 日下部 琉喜さん (峰山小3年)
「見つけよう ぼくらができる ゼロカーボン」
- 👑 **優秀賞** 立原 愛望さん (世矢小6年)
「小さなエコも みんなでやれば 大きな力」

中学生の部

小林さん 曾根さん 江幡さん

- 👑 **最優秀賞** 曾根 一花さん (瑞竜中2年)
「ゼロカーボン みんなの意識で 未来は変わる」
- 👑 **優秀賞** 江幡 杏さん (瑞竜中2年)
「脱炭素 他人事じゃなく 自分事」
- 👑 **優秀賞** 小林 礼華さん (峰山中3年)
「SDGs 一つの地球 1人の意識
~1人1人がSDGsを意識して未来を守ろう~」

活動部門 企業の部 最優秀賞を受賞!

「ピジョンマニファクチャリング茨城株式会社」

代表取締役社長の坪さん、取締役の池田さんにお話を伺いました。

ピジョンマニファクチャリング茨城は、ベビー・マタニティ用品を展開する「ピジョン」グループの一員として、地球環境・サステナビリティに配慮した運営を行っています。工場運営に使用する電力は、再生可能エネルギー由来電力の導入100%を達成。また、施設内照明のLED化やEVフォークリフトの導入など、カーボンニュートラルに繋がる幅広い取り組みを行っています。

「ピジョングループの一員として“この世界をもっと赤ちゃんにやさしい場所にします”という存在意義を共有しています。ウェットティッシュは赤ちゃんの肌に直接触れるもの。それを思えば、排ガスもできるだけ避けたかったので、EVフォークリフトの導入も必然の流れでした。赤ちゃんが大人になった時の地球のことを考え、環境負荷をなるべくかけないように取り組んでいます」と代表取締役の坪さん。再生可能エネルギーは令和2年より導入、FIT制度を活用し令和4年9月からは電気由来のCO2排出量実質ゼロでの工場稼働を実現しました。また、環境マネジメントシステム規格「ISO14001」の認証も取得し、工場全体で環境負荷軽減意識を共有しています。

「パッケージ印刷にも、環境にやさしい植物由来のバイオマスインクを一部使用しています。少しずつでも、出来るところから取り入れていきたいです。」と、取締役の池田さん。赤ちゃんにやさしいことは人にもやさしく、環境にもやさしい。ピジョンマニファクチャリング茨城の取り組みは、地球にうれしい好循環を育てています。



代表取締役社長・坪さん(右)、取締役・池田さん(左)



同社では「おしりナップ」を始めウェットティッシュ等を製造



工場の照明はほぼLED化



フォークリフト17台すべてがEV

令和6年度もカーボンニュートラル顕彰制度を実施します

活動部門

企業の部・団体の部

市内においてカーボンニュートラルにつながる活動に取り組む企業、市民団体の方を募集し、顕彰します。

作品部門

一般市民の部・小学生の部・中学生の部

カーボンニュートラル実現に向けた作品を募集します。

募集期間や応募の詳細については、
決まり次第広報ひたちおたおおよび市ホームページでお知らせします。